

東北地方太平洋沖地震後の海底地殻変動観測結果

海上保安庁による海底地殻変動観測から、「銚子沖」及び「福島沖」では東南東向きの変動がみられる一方、本震震央付近の現在のところ大きな変動はみられない。

海上保安庁では、2011 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震後、日本海溝沿いに設置した海底基準点において、順次海底地殻変動観測を実施している。

ここでは、第 191 回地震予知連絡会(平成 23 年 6 月 13 日)以降の解析結果について報告する。

(地震後の変動について)

「釜石沖1」、「宮城沖2」、「宮城沖1」、「福島沖」、「銚子沖」※(「常磐沖」から改称)の各海底基準点において、2011 年 8 月末から 9 月初頭にかけて調査を実施した。図 1 に各海底基準点の位置を示す。

図 2 に地震発生後の各海底基準点の局位置解のプロットを示す。各海底基準点の解析には、高さ固定手法(石川、2005)を使用した。

現在のところ、「銚子沖」及び「福島沖」では東南東向きの変動がみられる。また、「宮城沖1」、「宮城沖2」及び「釜石沖1」では大きな変動は見られていなかったが、「宮城沖1」においては8月の観測結果では西向きの変動を示している。

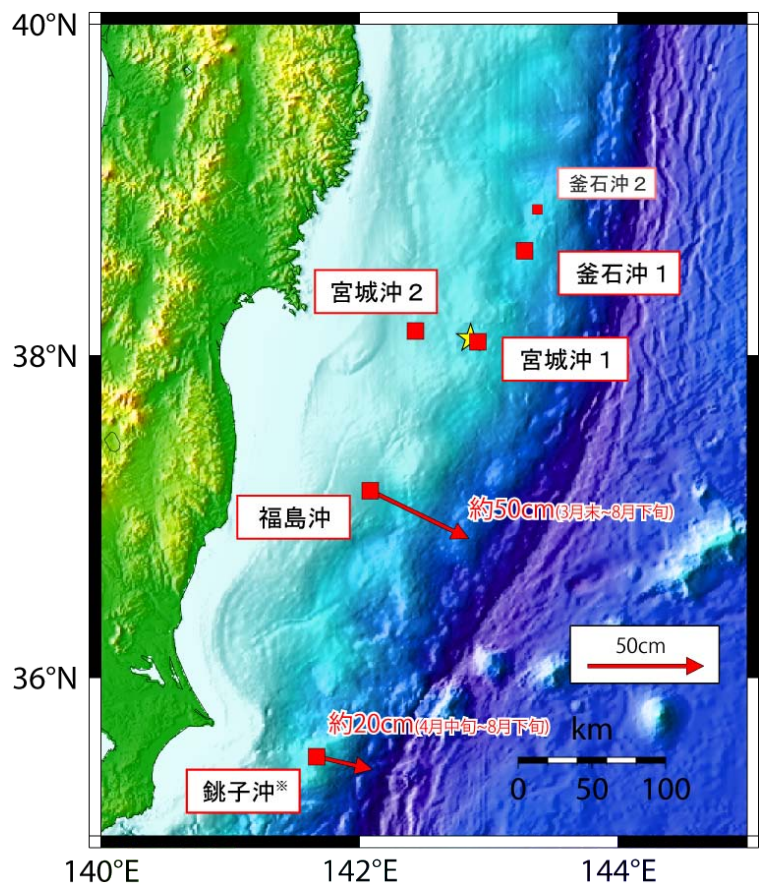


図 1 各海底基準点の位置及び観測された地震後の変動量
(星印は本震の震央)

今後も海底地殻変動観測を継続的に実施し、さらなるデータの蓄積を行うことにより、地震後の海底の動きを監視する。